資料2

岩木川流域生態系ネットワーク検討委員会
今年度（令和3年度）の取組み報告

令和4年3月

青森河川国道事務所

岩木川流域生態系ネットワーク　第１回ワーキング

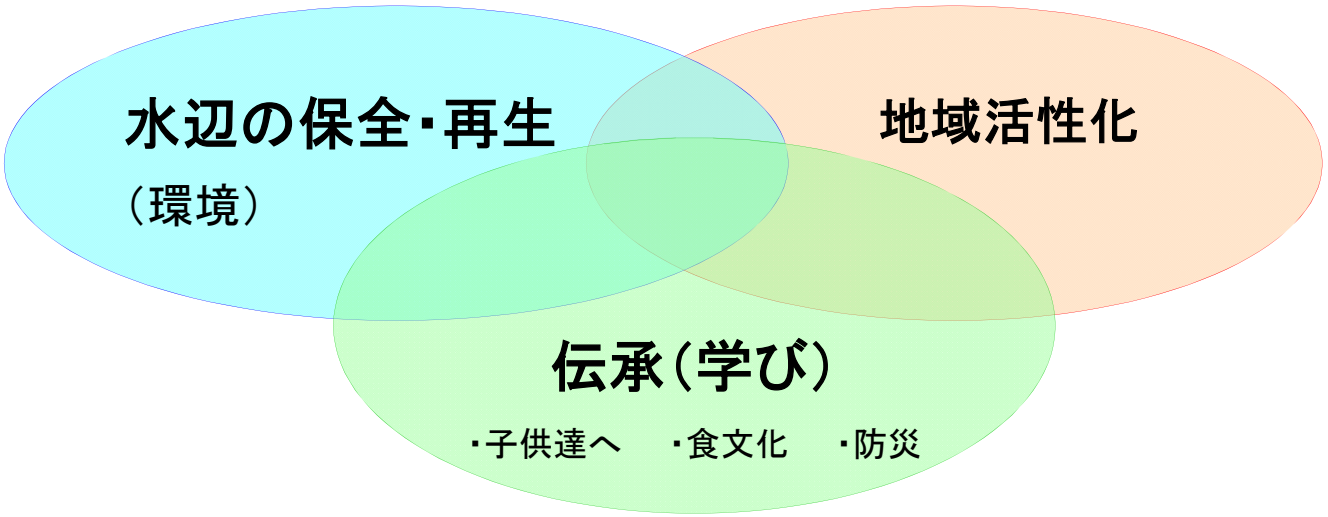
岩木川をフィールドにして活動している方々による
ワーキンググループの立ち上げ

［日　時］令和３年１２月１６日（木）9：30～11：00
［会　場］弘前大学　会議室
［出席者］東　信行　弘前大学 農学生命科学部 教授
谷口　哲郎　NPO法人つがるの自然学校　理事長
村上　英岐　岩木川漁協協同組合　代表理事組合長
三上　千春　公益社団法人弘前観光コンベンション協会　会長
［事務局］東北地方整備局 青森河川国道事務所

開催状況

目的および討議内容

- 第１回ワーキングでは岩木川を題材として、自由にメンバーの「想い」を意見交換しました。
- メンバーからのご意見から、その思いの中は、次の3つの理念に纏めることができ、地域活性化や環境保全の『実践内容』や『目指す目標』の方向性が示されました。



岩木川流域生態系ネットワーク　第１回ワーキング

第1回ワーキングの意見・提案の整理　（1／3）

岩木川における自然再生

現在実施している自然再生を発展　　例：ワンドの再生・河畔林管理

「小さな自然再生」の展開

小さな魚道の設置等の「小さな自然再生」の体験プログラムの検討、試行

例：芦野堰の魚道が欠損している箇所に、竹で編んだ蛇籠を使い小さな魚道を作ることをイベント化する

保全対策箇所の見直し

かつてカワセミの営巣環境として整備した「カワセミ護岸」を補修整備

岩木川の魅力のPR

Twitter・ホームページ・報道機関を活用し、「認知度の向上」「かつての岩木川に対するイメージを地元から変える」 PR

岩木川のイメージ向上を目指す体験事業

アユやイワナの釣りと民宿・捕獲体験や試食等の体験プログラムの検討、試行

例：以前、川魚の料理教室でニゴイ好評だった。　コイ・ウグイ美味しい　・ブラックバスを中華風に料理

川でも水田でも、生き物を捕らえるプログラムは特に人気

深浦ではマグロ釣り船が人気ある。津軽ダムの水陸両用車も好評。海に接していないない内陸では屋形船など人気が出るのではないか。

岩木川流域生態系ネットワーク　第１回ワーキング

第1回ワーキングの意見・提案の整理　（2／3）

釣りを観光コンテンツとしたツーリズムの展開

釣りをテーマとした体験プログラムの検討・実施、有料による釣り関連施設の設置

「やな」秋の風物詩の復活

かつて20～30年前にあった落ちアユの「やな」を、鉄骨構造の大規模ではなくとも小規模化して再設置

堤防沿いへの自転車道の整備

岩木川におけるサイクリングロードの整備

散策路の整備

岩木川における散策路の新設および河畔林管理に併せた旧道の再整備等
対象区間（イメージ）：富士見橋～岩木橋～上岩木橋

岩木川と親しむ事業の展開（屋形船・「川の駅」等）

ねぷたの前後から秋までの入れ込みを狙った屋形船の航行や、流域の産物を扱う「川の駅」の設置
弘前防災ステーション　→　川の駅 化へ

岩木川流域生態系ネットワーク　第１回ワーキング

第1回ワーキングの意見・提案の整理　（3／3）

岩木川の上下流域や農業系との交流

源流域から下流域までを回遊できるような仕掛け（例：川下り）の検討

土地改良区や農家など農業系との物産の繋がりで重要

防災の視点も踏まえた体験事業

農業・防災・除雪に用いる重機の乗車体験等　　例：長野県小布施町 千曲川の nuovo(ﾉｰﾎﾞ)

小中学校の川への接し方を変えて、川への親しみの回復へ

Eボート等の舟を活用した体験事業

芦野堰～下流ヨシ原におけるEボート等の舟の乗船体験

他流域との交流

岩木川流域の小中学校と、他流域の小中学校の交流事業

利根川下流におけるヨシ原を活用した取組を進めている東庄中学校が有力候補

子どもを対象とした環境教育

・学校単位だと年間スケジュールが予め決められているので、休日や夏休み時期を対象に子どもを募集する環境教育プログラムの検討、試行　（ねぷた祭時は外す）

・事務所が単発で実施している水質調査等のプログラムとの連携

・中泊町で芦野堰アユ放流した学校が交流先として良いのではないか。

岩木川流域生態系ネットワーク　第2回ワーキング

来年度(R4)の活動内容＝試行イベント
弘前観光コンベンション協会 様からのアイディア紹介

［日　時］令和４年２月８日（火）13：30～14：45
［会　場］Web会議
［出席者］東　信行　弘前大学 農学生命科学部 教授
谷口　哲郎　NPO法人つがるの自然学校　理事長
村上　英岐　岩木川漁協協同組合　代表理事組合長
白戸　孝之　公益社団法人弘前観光コンベンション協会　専務理事
［事務局］東北地方整備局 青森河川国道事務所

第1回ワーキングでいただいた意見を踏まえ
第2回ワーキングで実行に移す具体的な話し合いを開始しました。

第2回ワーキングの意見・提案の整理 （1／2）

アイディアでありましたPRセンター建設はハードルが高いと見られるので、代わりに防災ステーションを活用（PRセンター・ワーキング会合場所・イベント会場など）出来るのではないか。

アユの簗を設置するのは可能、ただイベント時に上手くアユが捕まるかは保証できないが、アユが必ずしも捕れなくとも、取組を知ってもらうだけでも意義があるのでは。

企画内容は例えば5～6月に放流して、9～10月に捕る体験が考えられる。子供達を対象とした部分も盛り込みたい。

企画の内容や簗の規模にもよるが、重機が必要な場合は、例えば建設業協会に土木のPRを兼ねた協力を依頼するとか。

簗の材料は竹が主流であるが、ヨシの利用はどうか。

稚鮎は佃煮で食べるとおいしいので、子供達に食べてもらいたい。柳の枝をロープで丸めて、子供達と追ってカジカを捕るような漁も良いかもしれない。簡単にできることから始めた方が良いと思う。

岩木川流域生態系ネットワーク　第2回ワーキング

第2回ワーキングの意見・提案の整理　（2／2）

現在、岩木川で実施している瀬・淵の自然再生事業と組合わせた活動ができるかもしれない。

例えば水路で水生生物の捕獲体験や刺し網漁を試行しても良い。また水路の改修前と改修後で実施しても良いと思う。魚道で実施しても、かなりの人が集まると思う。

魚道で実施するとしたら、弘前市上水取水堰が良い。普段できないところで捕獲体験ができるのは魅力がある。

ホタルが元々生息していない環境での整備は難しい、岩木川支流である平川上流方面には高密度な生息地があるかもしれない。

岩木川側の三川合流は秋田県境に近い相乗温泉には年によるがゲンジボタルが高密度で生息していた。遺伝的な攪乱は良くないが、地元のものを使えば、導入しても良いと思う。

観光関係者などに参加していただきモニターツアーのような形にして、川を経験してもらえるような企画にできると良い。

弘前観光コンベンション協会主催で数名を案内する「まち歩きツアー」を行っている。岩木川でできる体験などがあるのなら、組み込むことを前向きに検討したいと思う。募集するなら1か月以上前から始めたい。

岩木川の魅力発信に向けて、複数の組み合わせを企画しても良いと思う。例えばイベント試行では、新聞社などを巻き込みながら行う。

令和4年度に実現可能な取組みをやっていきたい。

連携体制の構築へ向けて

令和4年度は、地域活性化策（本イベント）に向けた実証実験としたイベントを行い、（国交省含め）各主体の連携内容を、この試行イベントで確認していきたい。

〇団体ごとの協力体制

〇持続可能な活動の方法

〇PRの方法

〇イベントで、どの段階から参加者を募るかのタイミング

（例：簗場復活→簗場設計・設置場所選定・材料準備・組立て・捕まえる・料理して食べる）

イベント開催にあたっての課題

・スタッフの確保

・資金の確保（材料代・人件費など）

・広報（集客）のテクニック